

令和6年度下関市立歴史博物館協議会 議事録

1. 開会

事務局より開会を告げる

2. 教育長挨拶

皆様こんにちは。教育長の磯部でございます。

本日は、ご多忙のところ博物館協議会にご列席賜り、ありがとうございます。

歴史博物館は、昨年11月をもって開館から8年を迎えております。この間、展示を中心に様々な活動を展開し、たくさんの市民の方々に喜んでいただき、好評を得ております。これもひとえに皆様方のご理解・ご支援のお陰だと心から感謝申し上げます。

さて、今年度でございますが、夏に下関戦争より160年に当たることを記念した特別展として「攘夷と海峡」、秋に戦国時代を対象とした特別展として「天下人との邂逅」を開催いたしました。「天下人との邂逅」につきましては、平成30年度開催の「大内氏の興亡と毛利氏の隆盛」、令和3年度開催の「毛利VS大友」に続く「海峡の戦国史」の第3弾となっております。このほか、これまでに3本の企画展を開催し、2月14日から「神と仏の物語―長府寺社巡り―」を開催しているところでございます。

さらに、展示活動に加え、中学・高校・大学の研修等の受け入れや、下関中等教育学校における探究的学習への指導助言、今年度新たに実施した「教員のための博物館の日」の事業、出前講座などを通じて、博学連携や教育普及を推進し、地域における「学び」に貢献できるよう努めております。

今後とも、職員一丸となって知恵を絞り、下関の歴史情報の発信に努め、地域に根ざした魅力的な展覧会を開催するとともに、調査研究や普及活動にも精力的に取り組み、歴史博物館の存在意義を高めて参りたいと考えております。

教育委員会といたしましては、今、特に小学生に力を入れておりまして、バスを貸し切って、旧4町の子供達に歴史博物館等を見てもらおうというような事業を進めております。今年度も、さらに人数を増やしてやっていきたいと思っております。

本協議会は、様々な立場の委員の皆様から、博物館運営に関するご意見、ご助言をいただいた上で、これからの博物館の運営の改善に繋げ、開かれた博物館づくりを一層推進していこうと考えております。本日は、忌憚のないご意見をいただきまして、活発な場となりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

松村委員、上野委員、富永委員、中村委員、山田委員、波多野委員、関野委員、大道委員、砂原委員の順で紹介。

4. 会長・副会長の選任

下関市立歴史博物館の設置等に関する条例施行規則第7条の規定に基づき、委員の互選により、会長に富永委員、副会長に中村委員が選任された。

5. 会長挨拶

富永会長

会長を拝命いたします富永でございますどうぞよろしくお願い申し上げます。

先程ちょっとお話をさせていただきましたが、この下関というのは本当に本物の歴史の街であります。実際にこの下関でいろんなことが行われて、またその史跡もたくさんあるというところで、是非ともその本物の歴史の街であるということを市民の皆さんに知っていただきたい。

そのための大きな拠点が、この歴史博物館ではないかなと思っております。市民の皆様は何度もこの歴史博物館に足を運んでいただいて、リピーターとなって、いろんな人たちに発信していただく。そうすれば、下関というのは素晴らしい過去をしっかりと見据え、未来に向かっていろんなものを考える街であるという認識をされていくものだと思っております。

変えなければいけないもの、変えてはいけないもの、これをしっかりと精査しながら、是非とも歴史博物館の展示物、そして広報なども、是非検討していただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

6. 議事

会長

それでは議事に入りたいと思います。令和5年度の事業報告を事務局より説明をお願いいたします。

館長

博物館館長をしております古城と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは令和5年度事業について報告をさせていただきます。

まず歴史博物館管理運営業務でございます。決算額は57,457千円でございます。

管理運営業務につきましては、歴史博物館、旧長府博物館、日清講和記念館の管理を行うものでございます。

職員数につきましては、令和4年度と同数で14名となっております。

続きまして、展示業務でございます。こちらは12,884千円の決算でございました。

展覧会につきましては、常設展示、企画展示、特別展示がございますが、総観覧者数が20,810人ということで、前年度より1,404人、パーセンテージでいきますと7.2%増加しております。

常設展につきましては307日間、観覧者数が10,965人で行いました。

企画展につきましては、4つの展覧会を開催しております。188日間、合計で6,852人の方にご観覧いただきました。各展示の詳細につきましては、別紙1のとおりでございますが、関連講座や展示解説には、延べ832人の方のご参加がございました。

続きまして、特別展示でございますが、102日間、観覧者数が2,993人で行いました。特別展につきましては「花凛々と一下関ゆかりの女性たち」と、「巖流島―そして、島は決闘の聖地となった―」の2つの展覧会を開催させていただいております。各詳細につきましては、別紙2に記しておりますが、関連講座、展示解説につきましては、308人の方がご参加されております。

4番その他の項目。歴史講座でございますが、「中世下関ゆかりの女性たち」そして「伊藤博文の憲法づくり」の2つ開催させていただいております。こちらは延べ116人の聴講がございました。別紙3に詳しく示しております。

またイベントといたしまして、企画展の関連イベントで「長府街あるき」これは55人の方、そして夏休み特別イベントとして「歴史博物館学芸員の一日体験」ということで19人の方が参加されまして、合計で74人の方が参加していただきました。

次に日清講和記念館でございますが、観覧者数が94,568人と大幅に伸び、前年度が50,292名ですので、ほぼ倍に近いところまで伸びたところでございます。

続きまして、資料収集保管業務でございます。

こちらは決算額が21,525千円で行いました。このうち2千万円が三吉家の資料の購入費用に充てたものでございます。

収集業務として、今申し上げました三吉家資料購入、こちらは所有権はもう市に移っておりますが、令和5年度から7年度にかけて2千万円ずつ、

合計6千万円お支払いすることになっております。

次に寄贈・寄託につきましては、別紙6にございますとおり、全部で654点の資料が寄贈・寄託されました。

続いて、保管業務でございますが、こちらは例年どおり収蔵庫・展示室・展示ケース内の温湿度管理それから空気の環境を調査していくというものでございます。消毒、くん蒸等々の事業を進めて参りました。

続きまして、調査研究・普及業務でございます。こちらは決算額221千円でございます。

研究紀要の作成、そして教育普及活動として出前講座をさせていただいております。出前講座につきましては、詳細は別紙7にございますが、全部で18件973人の方の聴講がございました。

4ページに参ります。児童・生徒による職場体験学習、こちらの方は博物館の方で協力させていただきました。令和5年度につきましては、3校11名の職場体験の学習の受け入れを行いました。長府中学校そして長府高等学校、それと下関商業高等学校でございます。

また博物館実習の形でもさせていただきました。山口大学から2名、そして東亜大学から1名を受け入れました。

その他の協力・連携事業としまして、これはテレビ等へ出演やツアー等でツアーガイドとして何かいろいろとちょっとしたお手伝いさせていただいたようなところでございますが、詳細が別紙8にございます。17団体からご依頼を受け、それに対応させていただきました。

次に、博学連携でございます。学校行事で来館された児童・生徒は、全部で17校609名でした。詳細につきましては別紙9のとおりでございます。

②は、川中中学校のワークスペースの方に博物館の資料のパネル展示をさせていただきました。令和5年につきましては「宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘」、その舞台となった巖流島の歴史について紹介させていただいたもの。さらに長府における大内氏の滅亡や、毛利氏の下関進出について紹介させていただきました。

また、小学校で活用できるコンテンツの作成ということで、関野委員の協力を得まして、動画を作成させていただきました。これ動画・冊子と書いてありますが動画のみでございます。令和5年につきましては、「源平の合戦と下関」ということで作っております。

5番その他につきましては、学術図書をご寄付いただきました。また、博物館の活動としてSNSサービスの展開や、博物館協会の役員もさせていただいております。

令和5年度事業報告は以上です。

会長

ただいま、令和5年度の事業について事務局よりご報告がございましたが、ご質問並びにご意見ございましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。

それではないようでしたらお諮りをいたします。ご承認いただけましたら拍手をお願いいたします。ありがとうございます。

それでは令和6年度の事業経過報告をお願いいたします。

館長

それでは、令和6年度事業経過報告につきましてご説明申し上げます。

まず歴史博物館管理運営業務でございますが、こちらは予算額68,857千円となっております。

職員数につきましては、前年度と変化なしで14名が続いております。

続きまして展示業務でございます。こちらは12,256千円の予算でございます。

総観覧者数につきましては1月末現在で18,838人。前年度の同月が16,728人でございますので、約2千人ぐらい増えております。このまま、3月が例年どおりの観覧者としますと、2万2千人前後になろうかと存じます。

常設展示につきましては、304日間で、10,176人、企画展示につきましては「幕末群雄伝―下関に集った志士たち―」等、4つの展覧会を開催させていただきまして、179日間、4,718人の方がご来館されております。この数字は1月末現在の数でございます。各展示の詳細につきましては、別紙11にございますが、関連講座には延べ676人の方のご参加がございました。

次の特別展示は、「攘夷と海峡」と「天下人との邂逅―海峡の戦国史第3章―」の2つで107日間、3,944人の方がご観覧されております。各展示の詳細につきましては、別紙12のとおりでございますが、関連講座には、771人の方がご参加いただいております。

4番、その他の歴史講座につきましては、「馬関でドカン！」シリーズの③④をさせていただきまして、延べ157名の方が聴講されました。

それからイベントにつきましては、企画展関連イベントとして「俳句相撲選手権 美術館場所」ということで、美術館の方でさせていただきました。こちらは選ばれた俳句の作者、小学生なんですが、児童の方16名、それから親御さんたちが観客としてご覧になられる中で開催いたしました。そして夏休み特別イベントとしてこれ例年好評いただいておりますが、「歴史博物

館学芸員 1 日体験」ということで 32 名の方が参加いただきました。

次に、日清講和記念館でございます。観覧者数につきましては 83,653 人で、前年同月 78,387 人でございますので、かなり増えております。3 月末には 10 万人前後になろうかと思えます。

続きまして、資料収集保管業務でございます。

こちらは予算額 22,050 千円です。このうち 2 千万円は三吉家資料の購入に充てるものでございます。

寄贈・寄託につきましては、別紙 15 にございますとおり、寄贈が 554、寄託は 12、全部で 566 点の寄贈・寄託を受けることになっております。保管業務は例年どおりでございます。

そして調査研究・普及業務でございますが、こちらは予算額 221 千円ということで、今年度は年報を作成いたします。

また教育普及活動といたしまして、出前講座が、別紙 16 に詳細を示しておりますが、18 件、1,195 名の方の聴講がございました。

職場体験学習につきましては、長成中学校、長府高等学校、長府中学校、下関市立商業高等学校から児童・生徒さんが来られまして、こちらの方で体験していただきました。

博物館実習の受入れにつきましては、京都府立大学の方が 1 名でございました。

また学校教員の研修の受け入れとしまして、下関市立清末小学校、長府中学校から 1 名ずつ、こちらの方で研修を受けていただきました。

その他、協力・連携事業につきましては、15 団体から依頼がございました。詳細は、別紙 17 のとおりでございます。

続きまして、博学連携でございます。

学校行事による児童生徒の来館が 32 校 811 名の来館がございました。別紙 18 のとおりでございます。これはまだ令和 7 年 1 月末現在の数字でございます。今年度中にもう少し増える予定です。

②これも例年の事業となりましたが、川中中学校のワークスペースを利用して展示をさせていただいております。「幕末の攘夷や下関戦争」、「海峡沿岸の砲台等」について紹介させていただきました。

また小学校で活用できるコンテンツ動画ということで、「海峡でおこった外国との戦い①」「海峡でおこった外国との戦い②」2 本の動画を制作いたしました。

それから今年度、「教員のための博物館の日」の事業をさせていただきました。別紙 19 に、詳細を記しております。これは歴史博物館だけではなくて、下関市の博物館みんなでやりましょう、ということでそれぞれ案を出し

合って進めさせていただきました。

また、企画展での博物館と豊浦小学校とのコラボ企画ということで、企画展「毛利元敏 - 趣味と郷土を愛した最後の殿様」において、下関市立豊浦小学校6年2組の児童による企画展関連動画の発信や、児童が作成したキャプションの設置などを実施いたしました。各SNS、X、フェイスブック、インスタグラム等で児童たちが作った宣伝動画をアップしました。外部からも博物館は面白いことをしてますね、というような評価もいただきましたし、児童たちがどんだんうまくなっていく。それがまた楽しくて、私も宣伝してもらっているのですが、私どもが楽しんでいたようなところがあります。

その他、学術図書の寄付がございました。

また、SNSのサービスでございますが、令和7年1月末現在で、Xのフォロワー数が1,845、フェイスブックが879です。インスタグラムにつきましては、令和6年度に始めたばかりです。YouTubeにつきましては、現在最高視聴回数のコンテンツが2,064回。本当に微々たる数字でございますが、最高視聴回数の動画につきましては、小学生たちが、授業や自学で利用しているところがありますので、よく視聴されています。他のコンテンツは100から数十回となっています。

日清講和記念館の耐震診断・補強計画については、今年度実施する予定です。ちょうど今診断中でございますが、3月末で一応結果が出る予定となっております。今後、その結果に基づいて対応していく予定です。

また、博物館協会の方は山口県博物館協会西部地区の理事をやっておりますが、さらに、日本博物館協会中国支部の理事も拝命することになりました。

令和6年の事業の経過報告につきましては以上でございます。ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

会長

ただいま、令和6年度の事業経過について、事務局よりご説明がございましたが、これにつきまして何かご質問ご意見ございますでしょうか。

委員

7ページの学校職員の研修の受入ですけれども、これは、県教員、いわゆる10年研修という中堅教諭等資質向上研修ですか？それとも別のものですか？

学芸員

はい。ご指摘のとおり10年目の研修です。

委員

あとインターンシップの受け入れというのが出てきません。これは別にどこかであるのでしょうか。オファーがあって受入を少し検討しているのか、そもそもオファーがないのか。

学芸員

インターンシップのオファーはございません。
大学に関しては博物館実習だけです。

委員

それはリストに登載されたりすると、アンケートを送ってきますよね。おたくで受けますかとか、どうされますか？というような。そういうものの回答で、たまたま大学生がないのか。別にインターンシップしなさいとか、僕らが言う話じゃないんですが、状況がちょっとどうなのかなと思ってですね。

学芸員

基本的に、私どもは受入れられます。

委員

それともう1点だけ。個人情報になるので細かくは答えなくて構わないんですが、この京都府立大学の方っていうのは、地元の方だからここっていうことですかね。それとは関係ないけどここがいいってことですかね。後者の方だったら随分いいなと思うんですけど、どういうものなんですかね。地元下関方面出身の方が、夏休みに帰ってきて受けられるパターンなのか。そうじゃなくて、下関の学芸員の方がいいからってことで、お受けなるのであれば、これはすごいなと。

学芸員

傾向としては、地元が下関、親戚の方が下関という方が多いですね。

委員

お受けになるときの要件って幾つかあると思うんですけど。

下関市の高等学校等を卒業していることとか、山口県のっていうのもないんですね。

館長

制限はありません。実際に、長府博物館時代も遠方の方が来られていました。幕末を研究している方などは、当館での実習を希望されていらっしゃいました。

委員

全体の流れとしては、やはり夏休みに行われることも多いので、帰省がてら地元に戻ってきて行きやすいということが、傾向としてあると思うんですが。今みたいにそういう研究のテーマで選んでもらっているというのは、これはすごくいいなと思いました。

会長

ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

委員

資料収集は非常に博物館にとって大事な話かと思うんですが、今回は、たまたま三吉慎蔵関係の資料収集ということで、2千万円ずつ3ヵ年ということでしょうけど、一般的に今回のこの3ヵ年は別として、通常2千万ちょっとぐらいをベースに予算化されているわけですか、そうでもない？その都度その都度必要な分？

館長

基本はゼロで、どうしてもこれが必要だということで説明して、その金額を予算化していくという形です。毎年一定額で決まっているものではありません。

委員

それと、もう1点だけ、調査研究・普及業務一緒に20万ちょっとなんですが、大半が何か啓発普及の方が多いような気がするんですが、こういう場ですから、率直な博物館側のご意見、感想で結構なんですけども。研究の方の経費が、少ないんじゃないかなっていうふうに思われるんですけども。いかがでしょうか。

館長

そうですね。研究しないと何も始まらないのが博物館ですが、特別展とか

企画展とか進めていく中で、その事業の中で調査・研究を進め、特別展・企画展という形で、皆さんにご覧いただくというか、成果をお返しする。つまり他の事業で調査研究・教育普及を進めているところもあるため、調査研究・普及業務という事業の予算は、少額となっているということです。

委員

そこは博物館の皆さん方が、いろいろ講座をやったり、いろいろアピールして、この大事さっていうのを、いわゆる研究も大事だということを、市民に知ってもらうことが一番だろうと思いますね。努力されてると思いますけども、引き続きよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

委員

6 ページの日清講和記念館の観覧者数が順調に伸びているように思いますけれども。これはやはり、インバウンドの海外の方？

館長

そうですね。インバウンドの方がかなり多いです。唐戸地区にお客様が集まっていて、赤間神宮へのルート上にあって、なおかつ無料っていうのはすごく大きいのかなと考えています。インバウンドの方も含めて、唐戸地区の増加がそのまま日清講和記念館の観覧者数の増加に繋がったことは否めないと思います。

委員

もう1つ。川中中のパネル展示を行ってらっしゃるのは、3年目に入るんですかね。生徒さんからの反応とか何かありますか。多分、展示を見られてすごく興味を持っている生徒さんもいらっしゃると思うんですけど、何か声として上がったりするんでしょうか。

学芸員

直接博物館の方に、その生徒さんから展示についてのご意見とかが来ているっていうことではないんですけれども、展示替えに伺ったときに、学校の先生とかからは、かなりの生徒さんがそこで足を止めて展示を見ていらっしゃるということは伺っていますので、それなりに見ていただいているのかなと

は思います。

委員

引き続き、頑張ってください。

館長

生徒さんだけでなく、ご父兄の方も、ご覧になられているという話も伺っています。

委員

1つだけお伺いしたいんですけど、令和5年の展示業務の予算と、令和6年の展示業務の予算で、令和6年度が何十万か下がっていますが何か意味があるのかなと。

館長

基本的に、借用先がどこになるかで、どうしても旅費だとか移送費が変わってきます。その辺を精査していく中で、少し差が生じます。

委員

そしたら遠方が少なかったとかですかね。

館長

そうですね。

会長

他によろしいですか。

それでは、お諮りをいたします。ご承認いただきましたら、拍手をお願いいたします。ありがとうございます。

それでは令和7年度の事業計画について、ご説明をお願いをいたします。

館長

それでは令和7年度の事業計画について、ご説明申し上げます。

まず歴史博物館管理運営業務でございます。こちらはまだ、4月1日以降は、わかりませんが、一応、職員14名ということで、予算確保しております。2月28日に議会が終了いたしまして、予算通過いたしましたの

で申し上げますと、管理運営業務が65,847千円の予算で、7年度は行う予定でございます。

続きまして、展示業務でございます。こちらは予算が12,332千円でございます。

特別展示につきましては、まず1つ目が「昭和100年記念」ということで「思い出の下関」を開催させていただく予定です。それから、特別展示もう1つは「毛利家からの手紙」という視点で開催を計画しております。

また、企画展示につきましては、現在開催中の「神と仏の物語」が4月の中旬までございますが、そのあと「西国一の大港を支えた商人たち」「元清と輝元」「薩長同盟と長府藩」ということで開催させていただきまして、併せて関連の講座や展示解説等も計画しておるところでございます。

続きまして、資料収集保管業務でございます。こちらは予算21,448千円となっております。こちらも例年どおりでございます。三吉家への支払いが最後の年になります。

続いて、調査研究・普及業務が239千円となっております。こちらは、研究紀要を作成するというところで進めていく予定でございます。

そして、その他の日清講和記念館の改修計画につきましては、今年度実施いたしました耐震診断及び耐震補強計画の結果に基づきまして、近い将来保存活用計画を策定したいと考えておりますが、その前段階として、市の中でこれをどのように進めていくのか、どのレベルで改修をしていくのかなど、そういった諸々の内部協議ができればと考えております。

以上が、7年度の事業計画でございます。なお、次のページに歴史博物館と日清講和記念館の入館者の推移を載せております。また、これまでの研究紀要についても示させていただいております。参考までにご確認いただければと存じます。

会長

ありがとうございます。

7年度の事業計画についてご説明ございましたが、何か皆様方からご質問ご意見ございますでしょうか。

委員

10ページの保管業務のところに関連して、資料のくん蒸について、現在どのようにやってらっしゃって、7年度はどうするかということですね。私どもの館もくん蒸庫をもってやっているんですが、エキヒュームSという種類のくん蒸ガスの生産が今年度終わるということで、代わりの薬剤をいろい

ろ調整するんですけども、なかなかそれに匹敵するのがなく非常に悩ましいところですよ。それでパナプレートという消毒液みたいなものでやるという手もあるんですけど、殺カビの方がうまくいかないという細かなことがあるんですけども。それで、私どもの博物館では、パナプレートの方で長時間になるんですけど、今までは、入れて除けて廃棄をしてというので延べ3日ぐらいあればできたんですけど、今度は1週間以上単位で置いとかないといけない。それもなおかつ、殺カビ効果がないっていうのが非常に悩ましいところで、それをどうするか。パナプレートで来年度はいくかとはやむを得ず思ってるんですけど、下関の歴博はどのようにされますか。同じ県内ですから情報としてお聞かせいただければと思います。

学芸員

くん蒸についてなんですけれども、状況は同じような感じで、来年度薬剤が変わるので、毎年くん蒸を担当していただいている業者さんと相談して、来年は代わりの薬剤があるものについてはそちらを使って、やはり殺カビができないっていうのが一番の問題なのですが、これはちょっと今のところどうしようもない状況でして、防カビの効果があるパナプレートと似ているものだと思いますが、バグレス、こちらをケースだとか、旧長府博物館の収蔵庫とか、そういったところに設置して、それで何とかカビの対策をするというような計画にしております。

委員

下関歴博は、新しい館なので、収蔵施設は水準以上の立派なものだと思うんですけど、やはり収蔵品がどんどん入ってくるとですね、やはり資料くん蒸をきちっとしないといけないので、これをどうするかというのが非常に悩ましいところですよ。うちの学芸員が東文研の研修に行って情報を聞いてきたところによると、必ずしも日本全国エキヒュームSを使っているわけじゃなくて、関東エリアの方は別の薬剤を使っているということもあるらしいんですよ。だから、この問題が日本全国でなぜ大騒ぎにならないのかなと思ったら、それは要するに、関東エリアの方は別の薬剤が使われているので、別に困ってない。もちろん商品の販売ルートの問題もあると思うんですけども、商圈というかな。それを使ってるところが、どちらかと言えば地方なので、地方は困ってるっていうんだけど、中央が困ってないので、あまり全国的に騒がれてないんですけども、この問題は文化財とか博物館資料全体で見ればですね大きな問題なので、やはり何とか解決しなきゃいけない。そうは言ってもやはり業者さんの方がそういう薬剤を専門に扱ってるんで、そこ

が対処しないと難しいところなんです。

来年度は、パナプレートと同等のやつのでやるということですよ。

学芸員

そうですね、カビの退治では、その防カビのバグレスというのを設置して対処することになっています。

委員

防虫の方は、なかなか難しいケアのところ、やはりカビが入るのが一番きついですね。そこがクリアできないというのが非常に悩ましいところだと思うんですが。開館から8年経っておりますが、収蔵庫とか、展示室のそういう、虫とかの調査ってされたことがありますかね。

学芸員

調査は、調査シートみたいなものを、収蔵庫に設置して実施しました。

委員

わかりました。そういう管理をしてらっしゃるでしょうけど、なかなかこれがやぶ蛇で恐ろしくてですね、調査すると、えーつていうようなことになるといけないこともあるんですけども、一方でやはり、そういう外から入ってくるものを防ぐということと同時に、今ある環境についても正しい情報を持つて的確に対応するっていうのも大事だと思いますね。

そのあたりは予算の中で、毎年やらなくてもいいかもしれませんが、定期的にやるとか、現状を認識するということで、多分綺麗だから大丈夫だと思うんですけど。もちろん虫がゼロなことはないと思いますよ。だけど、どの辺にいるのかなってわかってくると、大抵その収蔵庫の隅っこの方とかあまり人が入らないところに、何匹かかいたりするってのはあるんですが、それは何匹かいたってどおってことはないんでしょうけども。そのあたりについて正しい認識を持って、対応するっていうことが大事かと思っています。

会長

それって全国的な基準というのはないのですか。

委員

ないんですよ。文化財の方の研究するところがございまして、病虫害とかを文化庁と連携したり、そこのところが一応そういう研究水準みたいに出し

たりして、それに合う薬剤がどうなのかっていうのを発癌性とか色んなものとか安全性を含めて業者がそういうのを作っていくというのを、山口県なりこの地方にある文化財専門のくん蒸業者が、そのガスを仕入れてやるということなので、到底その文化庁の基準とか見るけども、薬種から何かまで指定までできないということと、自分たちが作っていたわけじゃないので、業者の人が作れませんと言え、もうなかなかっていうこともあるようなんです。だから、これはどうにか対応しないといけない問題だと思います。

いずれにせよ、ここの歴博で、資料のくん蒸されるときは天幕くん蒸でやるということですね。収蔵庫がないからですね。

学芸員

資料については、そうですね。古い方の旧長府博物館に運んで、そこで被覆くん蒸します。

委員

私ども県立博物館は大きな収蔵がございますので、県美・県博・文書館・図書館とか県立同士が連動して、資料をそこに持ってきて一斉にやるというようなことをしていますが。下関市立美術館はくん蒸はどのようにされていますか。

委員

昔は収蔵庫のくん蒸などしてましたけど、講堂にものを集めて。

委員

なるほど。下美のスケジュールで、歴博は歴博のスケジュールでやるっていうことですね。

その辺りは必ずしも連携しなくてもいいと思うし、作品の種類も違うと思いますし、展覧会のスケジュールでやりたくないとかあると思うんですけど。市として効率よくやるっていうのは1つの手かなと。

県としてもやっている。もちろん、そのやっているというのは、教育長の方からこうしろと言うんじゃないで、館相互が連携して融通をつけてやっているということで、同じ県費を使ってやるのに、部屋が空いていたら融通した方がいいですよということをやっています。

以上ですね、一応これから課題として引き続き残るということですね。

会長

はい、ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

委員

教育普及活動についてです。

今年度昨年度とかなり頑張っておられるなって感じております。本校も大変お世話になりました。ありがとうございます。

川中中で展示替えされるのであれば、展示替えされた古いものが、どこかにあるなら、どこかの学校で、使いまわしでやったらどうかなとちょっと今思いました。

来年、中学校の校長が23人中10人ぐらい居なくなるんですよ。ですので、できれば中学校との連携は、こんなことしていますよというワンペーパーでもいいですので、そういうのを作っていただいて校長会に来ていただいて、こんなことができますよって宣伝していただいたら、他市からも校長が来ますので、これ乗っかってみようとか、いうこともあるかもしれません。知っている校長は、いろいろアクションを起こして作っていますけれども、知らない校長も沢山いますので。

ということで、教育普及活動に努めていただきたいことと、また、豊浦小学校の6年生が探究活動をやられています、この子等が中学校に入ってくるけどどうするって、私は教員に言いました。中学校側が、今までと変わらない水準の探究活動をしていたら駄目なので。ということで、これからは小学校とこうした活動をやっていただいて、中学校がちょっとドキドキさせるような感じで上げていただいたら、本校の、また教育活動のレベルが上がると思います。よろしく願いいたします。以上です。

会長

他に、はいどうぞ。

委員

教育普及活動の方で多分4月に小中学校校長会にいると思いますので、先にお伝えをしておきます。

例えば「教員のための博物館の日」がありますよね。こういう日を、各教科の研修の場として活用して欲しいということを伝えようと思っています。

理科、社会それから他の教科で博物館を使っの現場での研修をして欲しい。教育センターが綺麗になったので、教育センターに来て、それぞれの教

科の先生が研修会をやるのはいいんですけども、実際この5館に行って、各教科の先生が下関の歴史であるとか、理科学的分野だとか美術、それを見てきて欲しいと、研修を進めて欲しいということを強く言おうと思います。特に中学校の方は教科部会に分かれていますので、中学校教育研究会の方へお伝えいただけたらと思います。

小学校の方にもお伝えしますが、特に中学校の方は教科部会があるので、強く5館の方を中心として研修をするように言おうと思います。

会長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

委員

まずコンテンツについて、大変小学生にとって、有意義な意味があるコンテンツになっていると思っています。このコンテンツを作るというのは本当に大変だと思うんですけども、これが充実してくれば、子供たちの学びもしっかり充実したものになるかなあということで、大変ありがたく思っています。

また、小学校自体は社会科の先生が集まるという部会がなかなかないんですけども、社会を勉強しようという小学校の教員が集まる部会が年1～2回ありますので、その中で、どういうふうに活用したかとか、どんなふうに子供たちに効果があったのかっていうあたりを、また聞いてみたいというふうに思っています。

今まだこの部会が開けてないので、そういったあたりの声を返していきたいと思っています。それからもう1点、今、社会を勉強しようという先生が集まってくる中で、昨年度もあったんですが、昨年度は別の研修を行ったのですが、その中で声が上がったのは、下関市にゆかりのない教員や、下関出身だけど地元のことを知らないという先生が、下関の歴史を勉強したいとか、ぜひ、学芸員さんに勉強会に来ていただきたいとか、歴博に行って勉強したいとか、そういう案がありましたので、今、教育長も言いましたけれども、そういった中で、こういう場所に来てもらう機会をぜひ作りたいなあというふうに、昨年の反省を踏まえてですね、今思っているところです。以上です。

会長

他にございますか。よろしいでしょうか。

それではお諮りをいたします。ご承認いただきました拍手をお願いいたします。ありがとうございます。

それでは議事の4番、その他に移ります。博物館の運営等に関しまして何か、これは自由にご意見ご質問ございましたら、お願いをいたします。全体的なことをでも構いません。よろしくお願いいたします。

委員

さっき会長が言われたように、長府は歴史の宝庫であり、地元も含めて市民もしっかり勉強して欲しいなと思うんですよね。長府の町は、城下町は土堀の街で私たちの誇りでもあったんですけれども、今どんどん堀が崩されて、見る度に、どうしたらいいだろうかって相談するんですけど、なかなかいい案がありませんが、本当にやっぱり修復というように、文化財ですからそれを、みんなで守ろうっていうのは、地元から声を上げないといけないなと思いますので、いい案がありましたら教えていただきたいのと、今まだ修復する職人がまだいらっしゃるんですが、だんだんいらっしゃるなくなると大変なので、それを今私が一番心に思っていることです。もし良い案があったら、よろしくお願いいたします。

市から補助をもらってできた土堀もあるんですけど、崩してしまうとあとの祭りで、そういう悲しい思いをしたこともありますので、その面も含めて、また検討していきたいなと思っています。素晴らしい土堀で、また何かそういう情報がありましたら、ぜひお願いします。

委員

ちょっと関連することで、豊浦郡を回ると、やっぱり歴史を勉強している特にお年寄りの方ですね、長府の位置付けを大事にしているんですよね。豊浦という地名から始まってですね、郡役所があった時代の話から、私は鉄道史をやっているんですけど、長府に向けて鉄道計画なんかも随分あって、何で長府に向かっているのって学生達と議論すると、長府の町って、特殊には考えてないんです。でも、明治・大正時代に郡役所というのがあって、この広いところの中心都市中心地だったんだよという話をすると、びっくりするんですけども。それをもう一度ですね、別に地域エゴというんじゃなくて、文化的に歴史的にこの長府の町は、やっぱりこの地域を統一してきた1つの中心都市だったんだっていうことをですね、もう1回認識してもらおう。特に若い人ですね。

下関の中心部は、会長を初めいろいろこう、ウォーターフロントでやっております。これはもう、みんな、うちの大学来る学生もみんなこうわかっているんですけど。長府って、確かに城下町があって、何か観光地だっているんですけど、その歴史的価値とか、それは知らないんですね。

そこもやっぱりみんなに講師を仰いで、結果的に今おっしゃるような、話ですね。だから、何でもないように改修工事やると、なんであそこだけみたいな話になるので、やっぱり本当にこの地域の旧長府藩、豊浦群全体の、財産なんだっていう意識に持っていくことから始めて、長府のまち、みんなでやっていこうっていうふうに持っていくのが、いいんじゃないかなっていうふうに思います。

会長

館長さん、この前海峡ウォークでいろいろお話いただいたときに、長府藩っていうのはやっぱり、本藩の次というふうにおっしゃったけど、そういうようなことをまだ知らない方が非常に多い。だからそういう意味じゃ、まずもってこの歴史博物館に足を踏み入れていただくということが、これがあるというのは、やっぱりすごいですよね、下関にとっては。そんなそういう活動をぜひやっていただければと思うんです。

今、それに関連するお話なんですけど、ちょっと私の方から、ちょっと意見じゃないんですけどちょっと言わせていただくと、できれば小学校、中学校、高校のそれぞれで、必ず一度は博物館に来るということが、ある程度うまくできればいいなと思っています。

小学校は小学校なりの感じ方をして、中学生は中学生の感じ方をして高校では高校の。要は、下関で育てば、少なくとも3回は必ずここに来るということ、同じように、教員の方たちも必ずここに来るということ。これが先ほど教育長のお話もありましたように、別にここだけじゃなくて、5館ありますよね。いろんな博物館が。そこに海響館も含めて6館、必ず1度足を運んでいくということをやらないと、子供たちが関心を持たないのではないかとと思っています。

私も、子供の頃に学校で行きたくないのに行ったところは意外と覚えているんですよ。本当にそういう意味じゃ、僕らもそろってよく長府遊園地とか水族館とか行ったような思い出があるんですけど。だからそういうようなことをまず、子供たちに体験してもらおうっていうことが必要なのかなと思いますね。

是非ともまた教育長も、責任が重くなると思うんですけど、そういうことをやっていただければ、ありがたいなと思います。

教育長

本年度のワクワクバスツアーは、旧4町に絞り、バスを借りて博物館に連れて行きましたが、今後はこの枠を広げたいと考えています。

今、言われたとおり、絶対に行くように言っているんですけど。行って学ぶよう、そういうふうな仕掛けを、今、作っているところです。

会長

結構いろんなところがあって。それは歴史的なものもあるし、観光的なものもあると思うんですけど。意外と市民行ってないんですよね。

海峡タワー上ったことがある人がどれだけいるかって話ですよ。意外と上ってないですよ、皆さん。でも、よそから来られた方たちは、あの海峡タワーをシンボルと思って。移住を希望する人達は、海峡タワーが見えるから、ここに住むっていうんですよ。まさに田舎の人たちが東京行って東京タワーが見える所に住むという感覚と同じなんですよ。

だからぜひそれは下関の人たちも、いろんなところにまず行っていただきたいなというふうに思っています。

その1つが、まさにこの歴史博物館じゃないかな。是非ともこれは市民全体的がやるようなことかなと。いろいろと、是非一緒にできたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

委員

本当に先生方も働き方改革で、大変だと思うんですけど、やっぱり学ぶ場を大いに作っていくっていう、それがやっぱり基本だと思いますし、私いつも思うんですが、子供たちに誇りを持ってくださいと言うんですけどね、やっぱりふるさと知れば知るほど、子供たちは全国散らばっても、また思い出してくれて、長府よかったなって、本当、長府の宣伝ばかりしておりますが、そういうふうな子供の学びの場、本当にワクワクバスツアーなんかも、大変だと思いますが、機会を作るっていうことが、大事だと思いますので、そういうことをお願いしたい。

会長

他にございませんでしょうか。ないようでございますので、以上で終了いたします。それでは、事務局にお返しをいたします。

事務局

館長より謝意を延べ、博物館協議会の終了を告げる。